



# 学びを

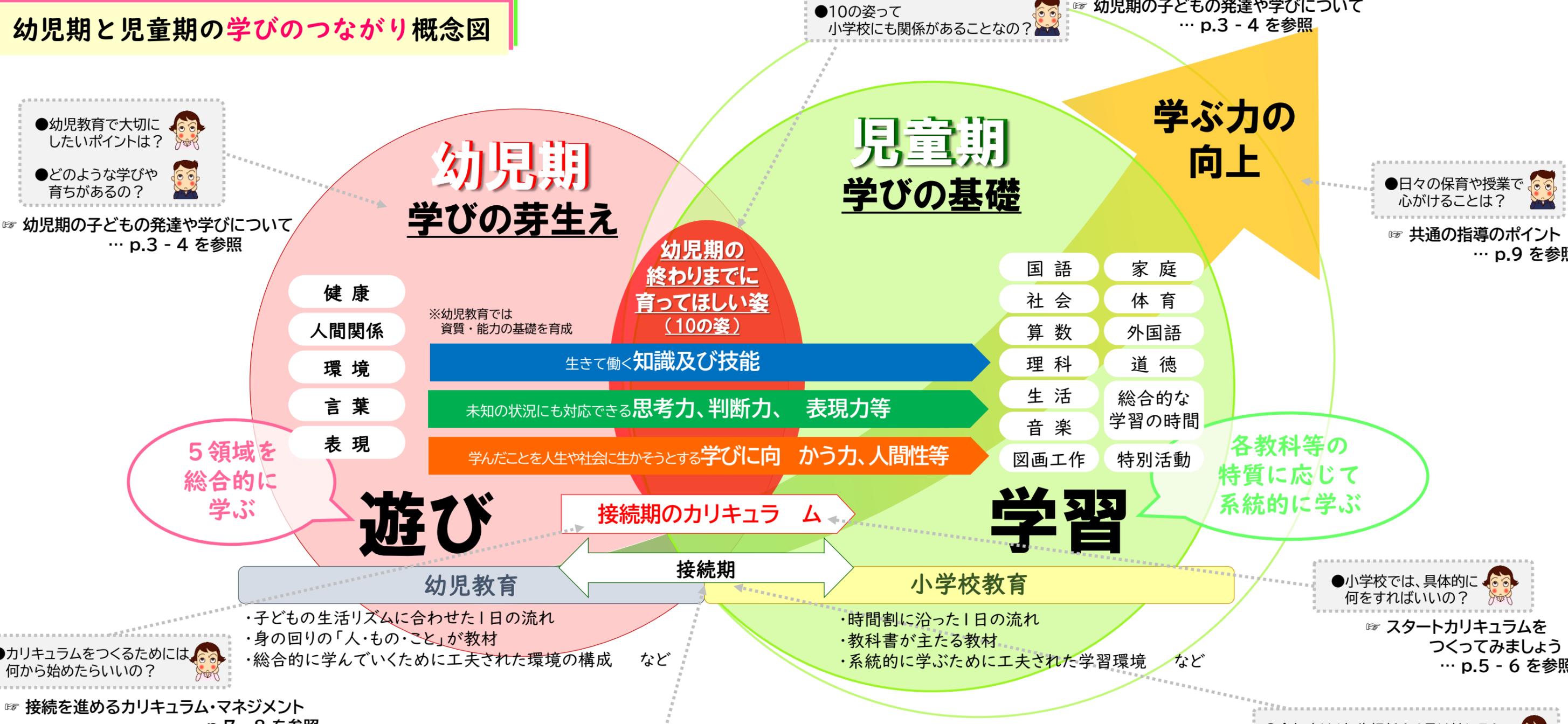
# つなぐ

# 幼小接続ハンドブック

幼児期(幼児教育)の「学びの芽生え」を  
児童期(小学校教育)の「学びの基礎」へとつなぐ



# 幼児期と児童期の学びのつながり概念図



## 幼小接続とは…

### 幼児教育と小学校教育の接続を見通した教育課程

◎ 連携から接続へ

多くの小学校区で、幼小連携に取り組んでいます。これらの取組は、互いを知る上で大変重要です。そして、子どもたちの学びをつなぐには、接続を見通した教育課程の計画・実施が必要です。

幼児と児童の交流活動

互いを知る

合同の研修会

幼児教育

小学校教育

接続を見通した教育課程の計画・実施

スタートカリキュラム

アプローチカリキュラム

連携 ⇒ 接続

## 1年生はゼロからのスタートではない！

小学校に入学する児童は、幼稚園・保育所・認定こども園・家庭・地域などでの様々な体験を通して学んできています。小学校教育を幼児教育からの延長と考え、つなぐことで、子どもたちの成長を伸ばしていきましょう。

小学校教育

幼児教育

児童期

幼児期

**円滑な接続**

幼小の段差を滑らかにした接続により、子どもたちの成長が伸びているね。

小学校第1学年をゼロからのスタートではないと認識することで、子どもたちのよりよい成長につながるのですね。

幼児教育で大切にされていることを意識しながら、子どものもつ力を引き出す教師の姿勢が大切だと思います。

小学校第1学年をゼロからのスタートと考えると…

幼児教育と小学校教育の円滑な接続が実現すると…

# 幼児期の子どもの発達や学びについて

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。(幼稚園教育要領より)

幼児期は、知識を教えられて身に付けていく時期ではありません。遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と関わりながら、総合的に学んでいきます。遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、また、友達と共有したり協力したりして、様々なことを学んでいきます。

## 幼児期の遊びには豊かな学びがある

試行錯誤  
考える する 気付く  
生きる力の基礎  
集中する 没頭する 協力する

例えば、ものを積み上げて遊ぶことを通して…



- 幼児教育で大切にしたいポイントは?
- どのような学びや育ちがあるの?

## 遊び=学び

やってみようと心を動かす

遊びをくり返す

充実感・満足感を味わう

ここがPOINT!  
遊びを通して、これらの資質・能力を一体的に育みます。



## 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育の改善

「直接的・具体的な体験の中で、対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤をし、生活を意味あるものとして捉える『深い学び』が実現できているか」という視点から、遊びや生活を見直します。



### 指導のポイント

- 1 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
- 2 遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること
- 3 幼児一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること

### 計画的な環境構成(例)

- ・必要な経験を重ねていけるような指導計画を立てる。
- ・自分のめあてに向けて、材料や用具を選択できるような場や環境の準備をする。
- ・じっくりと考えて取り組める時間と場を保障する。
- ・仲間と協同する場を創り出す。

### 保育者の援助(例)

- ・どうすればよいか、保育者が答えを出さず、子どもたちで考えさせるような言葉がけをする。
- ・見通し、思考、協同、振り返りに向けて、考えを整理したり、伝え合いの調整をしたりする。
- ・共感的な関わりを心がけ、自信がもてるようにする。

知識及び技能の基礎  
・・・豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする  
思考力、判断力、表現力等の基礎  
・・・気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする  
学びに向かう力、人間性等  
・・・心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

幼児教育で育む資質・能力

●10の姿って小学校にも関係があることなの?

幼児期の学びを具体的にイメージしたのが「10の姿」です。子どもの具体的な育ちの姿を幼小の共通の視点として、子どもの学びをつないでいきましょう。

# 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」

※それぞれの姿の概要のみを記載

### 【健康な心と体】



自ら見通しをもって思い切り体を動かし、心身の充実を図る

### 【自立心】



自分の力で行うために、考えたり、工夫したりしながら諦めずにやり遂げて、自信をもつ

### 【協同性】



互いの考えを共有し、共通の目的に向け、工夫したり協力したりして実践していく

### 【道徳性・規範意識の芽生え】



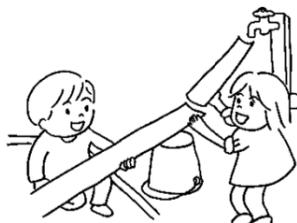
物事のよい悪いが分かり、決まりを守るために互いに折り合いを付ける

### 【社会生活との関わり】



家族や地域の人と関わり、情報を役立てながら活動したり、社会とのつながりを意識したりする

### 【思考力の芽生え】



物の性質や仕組みについて考えたり、友達の考えにふれたりして、よりよい考えを生み出す

### 【自然との関わり・生命尊重】



自然や身近な動植物にふれ、愛情を抱いたり、接し方や特徴に気付いたりする

### 【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】



遊びや生活の中で数量や図形、標識や文字に親しみ、興味や関心、感覚をもつ

### 【言葉による伝え合い】



絵本などに親しみ、経験や考えを言葉で伝えたり、話を聞いたりして、伝え合いを楽しむ

### 【豊かな感性と表現】



心を動かす出来事にふれ、感じたことを表現し、その喜びを味わう

### 「10の姿」についての考え方

- ★到達目標ではなく、方向目標であること
- ★1項目ずつ取り出して指導したり、評価したりするものではないこと
- ★全ての子どもに同じように見られるものではないこと
- ★それぞれの時期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、見られる姿であること

「10の姿」を念頭に置いて、一人ひとりの発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり、必要な援助を行ったりすることが大切です。

きれいな色を出すために考えたり、工夫したりする。  
[思考力の芽生え]

やってみることから自信を持ち、やり抜こうとする。  
[自立心]

身近な素材を使って、作りたいジュースの色を表現する。  
[豊かな感性と表現]



【色水遊びの例】

考えたことを伝え合いながら活動を進める。  
[言葉による伝え合い]

お店屋さんを開くという目的のために、友達と力を合わせる。  
[協同性]

花びらを使って、色水を作っていく。  
[自然との関わり・生命尊重]

遊びや生活を通して資質・能力が育まれている5歳後半までの具体的な姿

# スタートカリキュラムをつくってみましょう

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を入学当初の1年生を理解する上での視点として活用します。実際の子どもに、どのような10の姿が含まれているかを考え、幼児教育での学びや成長を見取ります。

●小学校では、具体的に何をすればいいの？

☞「カリキュラムを新たにつくらなければならない」ということではありません。これまでの1年生のカリキュラム（週案や単元計画等）を参考にして、入学してくる子どもに合わせたスタートカリキュラムをつくりまします。



幼児期の子どもを理解するには、保育を参観したり、保育を体験したりすることが有効です。

☞ 幼児期の子どもの発達や学びについては… p.3-4 を参照

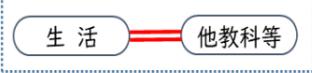


## ☞ 生活科を中心とした合科的・関連的な指導を充実させる

入学当初は、幼児期に遊びを通して総合的に学んできた子どもの発達の特性を意識する必要があります。幼児期からの学びを生かした指導をすることによって、子どもが自信や意欲をもって活動し、よりよく成長していくことができます。

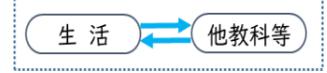
合科的な指導？

☞ 複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開することで、指導の効果を高めます。



関連的な指導？

☞ 互いの学習成果を学習に生かすことで、身に付いた力が確かなものになります。

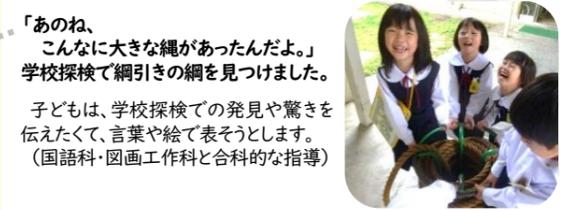


## 入学当初の各教科等の単元配列(例)

学校探検などの具体的な活動や体験をきっかけにした児童の思考の流れに沿って、各教科等の単元を配列することは、児童にとって自然で豊かな学びをつくっていくことになります。

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
国語	いちねんせい	よろしくね	はるのあざ	みつけたよ	ことばのひみつ
算数	なまづくりとかず	くらべよう	10までのかず	なんぼんめ	いくつといくつ
生活	がっこうだいすき みんななかよし (学校探検等)				
音楽	みんなであう	おんがくにあわせて			
図画工作	すきなもののいろいろ	じぶんマーク	こんなことあったよ	ねんどであそぼう	すなやつちであそぼう
体育	からだほくし	ゆうぐあそび			おにあそび
道徳	げんきにあいさつ	みんなであそぶもの	ともだちとなかよく	いきものとなかよし	
特別活動	入学式	1年生を迎える会		よろしくね	

## 生活科の学校探検を中心とした合科的・関連的な指導



「あのね、こんなに大きな縄があったんだよ。」  
学校探検で綱引きの縄を見つけました。  
子どもは、学校探検での発見や驚きを伝えたくて、言葉や絵で表そうとします。(国語科・図画工作科と合科的な指導)



「〇〇の仲間は6つだね。」  
算数の時間に「10までの数」について学習しました。  
「中庭に木があったよね。」  
「何本あるのかな？」  
「大きな木が…、小さな木が…」

算数科の学習を生かして、生活科の学校探検で見つけたものを仲間分けしたり、数を数えたりします。子どもは、学んだことを具体的な場面に結び付けることで、暮らしの中で数が存在していることを自覚します。(算数科との関連的な指導)

## ☞ 幼児教育を踏まえて、時間割や学習活動を工夫する

入学当初の子どもは、鉛筆や教科書を使う学習に憧れをもって、一方で長い時間じっと椅子に座って学習することが難しく、身体全体を使って学ぶという発達の特徴があります。

### 実態に応じた弾力的な時間割

早く文字や計算の学習をしたいと思っている子どもへの思いを大切にしながら、集中できる時間配分で設定します。(10~15分のモジュール)



「試行錯誤しながら、じっくりと学んでほしい」そんな時は、2時間続きのゆったりとした時間を設定します。

### 活動性のある学習活動

からだ全体を使って学ぶ具体的な活動を取り入れます。



どちらの容器がたくさん入るかみんで協力して確かめています。(小1算数)

週ごとのねらいやテーマを設定します。

一人ひとりが安心感を持ち、新しい人間関係を築いていくことをねらっています。

生活科の体験をきっかけにして各教科等の学びにつなげます。

子どもが集中できるような時間配分で設定します。

やり方を一方的に押し付けるのではなく、子どもたちと一緒に考える時間を大切にします。

午後からは、具体的な活動を伴う学習活動を位置付けます。

入学当初の時間割(例)

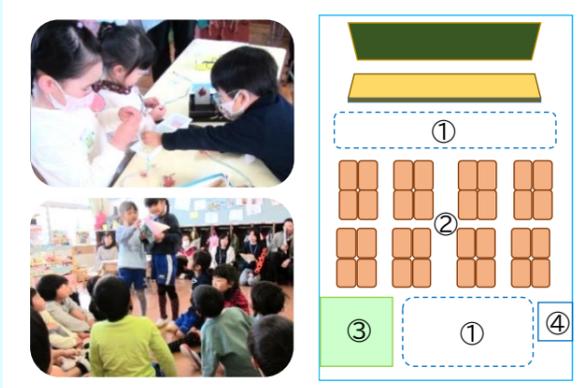
4月 第2週					
・教師や友だちと仲良くなる ・小学校での生活に慣れる					
	月	火	水	木	金
朝	国語・生活 学級活動	「なかよくなろう」 挨拶と返事 持ち物の整理 読み聞かせ 仲間づくりゲーム 等	一定期間は同じ内容を繰り返す連続性と、少しずつ内容が高まっていく発展性を意識します。	算数	「10までの数」 数の概念と表し方
1					
2	生活・国語	生活・国語 図工	国語	行事	体育・国語 図工
3	「学校大好き みんななかよし」 自己紹介 学校探検	「学校大好き みんななかよし」 発見したことを話したり、絵で描いたりする	「書きたいな」 正しい姿勢と鉛筆の持ち方	「避難訓練」 火事などの避難の仕方	「遊具遊び」 遊具遊びをして、楽しかったことを話したり、絵で描いたりする
4	学級活動 道徳	算数	算数	国語	国語
5	「楽しい給食」 給食の時間の約束	「くらべよう」 数を比べる	「くらべよう」 数を比べる	「あいうえお」 声に出して読む 平仮名を書く	「しりとり」 しりとり遊び
昼	給食・掃除				
6	国語	図工	図工	道徳	道徳
7	「はるのあさ」 押絵から気付いたことを話す	「自分マーク」 自分のマークを作る	「自分マーク」 自分のマークを飾る	「規則正しい生活」	学級活動 「週末の支度」
8	音楽	「みんなで歌おう」 春の歌			

## ☞ 子どもが安心できる環境を構成する

子どもが安心感をもって学校生活を送ることができるよう、人間関係が豊かに広がることや、学習のきっかけが生まれること等の視点で学習環境を見直してみましょう。

幼児教育施設を訪問してみましょう

### 幼児教育の環境を参考にした教室環境(例)



- ① 教室の前や後ろに全員が集まれるスペースを設ける。
- ② 座席をくっつけて班型にしておく。
- ③ マット等を敷いたスペースを設ける。
- ④ 幼児期に親しんだ遊び道具(けん玉・コマ等)を置いておく。

子どもにとって、担任の先生は重要な環境の一つです。以下のような人的な環境を心がけましょう。  
⇒子どもと一緒に活動を楽しむ  
⇒子どもの様子を温かく見守り、頑張りを認める  
⇒子どもの視線で話を聞き、温かい言葉がけをする  
※先生の笑顔が何より安心できる環境です。

### 活動を生み出す意図的環境

「こうしたらうかな」「やってみよう」思いついたアイデアをすぐに試しています。対象に繰り返し関わることができるような場や時間を設定することで、豊かな気付きが生まれます。



対話を通して学びを深められるように、あえて3人に一台のタブレットを使って活動しています。「なるほど」「そのアイデアもいいね」自然と会話が弾み、よりよい考えを生み出します。

### 子どもの思考を促す言葉かけ

- これまでの育ちと学びを大切に  
「園ではどうだった?」「お家ではどうしてる?」
- クラスは、子どもと一緒に  
「〇組のみんなはどうする?」「どうしたらいいかな?」  
例:遊びの約束、用意・片付けの仕方
- 自分で考えることを大切に  
「どうしたらいいと思う?」「どうしよう?」「みんなならどうする?」
- 疑問を共有する  
「いいはてな(疑問)だね!」「わかったら、先生にも教えてね。」

# 接続を進めるカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、目の前にいる子どもたちのために、教育の効果を常に検証して改善し、よりよい学校教育を目指すことです。また、全教職員の協力体制のもと、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることが大切です。



●カリキュラムをつくるためには何から始めたらいいの？

☞ PDCAのサイクルを確立し、組織で取組を進めていきましょう。

接続の第一歩は、互いの保育・授業の参観から・・・



小学校の先生が、保育を参観しに行くとき・・・

幼児教育では、子どもの主体性を大切にされていると感じました。また、遊びの中にたくさんの豊かな学びがあることがわかりました。さらに、生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、小学校の授業につながるポイントをたくさん知ることができました。

どのような協力体制なの？



☞例えば、小学校の入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう、学校全体で時間割を調整します。そうすることで、他学年の担任もスタートカリキュラムについて考えることができます。また、定期的に保育・授業を参観しに行けるようにします。



参観後の協議で何を話せばいいの？



☞例えば、保育・授業の中で見られた子どもの姿について話し合います。それを基に、保育者・授業者の手立てや支援について考えます。また、学校と園での様子を比較することで、子どもの成長を実感することができます。

幼小接続の組織のメンバーは？

☞例えば、小学校からは校長、教頭、教務主任、現1年担任、新1年担任、生活科主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなどがメンバーとして考えられます。園からは、園長、副園長、主任、5歳児担任などがメンバーとして考えられます。



どのような改善を図るの？

☞例えば、『5月の連休明けに不安になった子どもが多かったため、連休明けに安心できる活動を取り入れる。』『写真入りで手順を示すと落ち着いて生活できたので、子どもの目線で学習環境を見直す。』『夏休みにスタートカリキュラムの検証・改善についての会議を計画する。』などです。

前年度内に年度初めに 組織を立ち上げて準備しましょう

- 各校園の担当者を決定し、組織をつくる
- 幼小接続の意義や考え方などを共通理解する
- 子どもの実態を話し合い、目指す子どもの姿を明確にする（共通目標）
- 目指す子どもの姿を基に意図的・計画的な指導（スタートカリキュラム等）につなげる

P

協力体制を整え、実践を進めましょう

4月から

- 担当者や5歳児・1年生の担任だけでなく、全教職員で関わるようにする
- 幼児期の学びや発達を踏まえ、スタートカリキュラムを実践する
- 活動の中で見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に子ども理解を進める

D

随時 確実な検証・改善を図りましょう

- 子どもの姿を基に、長期・短期サイクル両方の検証を行い、具体的に改善を進める
- 接続期カリキュラムを改善するために、資料（週案や通信等）をデータベース化し蓄積しておく
- 課題を改善するとともに、成果を積極的に共有する

A

子どもの姿を語り合しましょう

随時

- 互いの保育・授業を参観し合い、ねらいに即しているかを検証する
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に子どもの学びや育ちについて語り合う
- 組織としての取組の実施状況を確認する

C

P

D

C

C

A

子どもの実態を基にカリキュラムを検討しています！

小学校区の教職員を対象に行った幼児・児童の実態調査（アンケート調査）から、「自ら考える」や「言葉で伝える」ことに課題があることがわかりました。

園では、子どもが自ら対象に繰り返し関わることを大切にしています。経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたいような環境構成を意識したいと思います。

子どもの園での経験が生きるよう、小学校でも園で大切にされていることを踏まえて授業改善に取り組みたいと思います。園内研究と校内研究を連動させて、キーワードを設定してはどうですか？

学びをつなぐ共通のキーワードとして、  
◎ 目的意識  
◎ 試行錯誤  
◎ 表現  
を設定し、日々の保育や授業の中で、全教職員が意識することになりました。



保護者にも定期的に成果を伝えていきます！



～工夫された掲示物～

園での出来事を「ドキュメンテーション」として、発信しています。また、これを通して保育者自身が「遊びの中の学び」について振り返り、保育の改善につなげています。

～入学説明会・入学式後～

園での生活が小学校生活の基盤になることを伝え、接続期の取組について説明しています。保護者の安心が子どもの安心につながります。

～学級便り・懇談会など～

子どもが興味・関心をもって学習に取り組む様子や安心して生活している様子を保護者にエピソードで伝えています。活動を通して、主体的に学ぶ姿を保護者に理解してもらうことは、保護者の意識の変容にもつながります。

子どもの学びや発達を「10の姿」で考えています！



幼小の教職員が保育や授業の写真を見ながら、その場面の子どもの思いや願いについて考えます。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を共通の視点として幼小で子どもの学びを考えることができ、実践の検証につながっています。

実践はすぐに検証・改善しています！

入学式の朝、保護者と離れるときに不安になる子どもが多かった。園の先生と相談し、入学式の前に安心してできるような活動を取り入れてはどうか。

不安がっていた子どもが、一日の流れを示すことで、落ち着いて過ごすことができた。子どもが見通しをもって生活できるようにしたい。

スタートカリキュラム 第1週「はじめまして かつこう」

4かつ	げつ 8日	か 9日	すい 10日	もく 11日	きん 12日
朝の会	にゅうがくしき	「なかよくなるう」 ・挨拶と返事 ・持ち物の整理 ・読み聞かせ ・仲間づくりゲーム	「自己紹介ゲーム」をしたが、名前を知るだけではなく、共通点がわかるような「なかよしゲーム」ができるように。	「おはなしよんで」「いくつかな」	「おはなしよんで」「いくつかな」
1					
2	「がっこうだいすき」 がっこうたんけん いこう	「がっこうだいすき」 がっこうたんけん いこう	「がっこうだいすき」 がっこうたんけん いこう	「がっこうだいすき」 がっこうたんけん いこう	「がっこうだいすき」 がっこうたんけん いこう

教師が案内するだけではなく、子ども自ら探検できるように、教務の先生にも協力をお願いしてはどうか。

# 共通の指導のポイント

●日々の保育や授業で心がけることは？



☞ 学ぶ力向上の3つの視点に沿って、同じ視点から取り組んでいきましょう。

## 【第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン】

### 視点1

#### 成長を実感できる 保育・授業づくり

<具体的な取組例>

##### ■知的好奇心を刺激する

- ・子どもの興味や関心を大切にする。引き出す。
- ・少しだけ難しいこと（さらによいこと）を伝えて、期待していることを示す。
- ・既知と未知との「ずれ」が意識できるようにする。
- ・予想を取り入れて、課題が自分ごととなるようにする。

なぜかなあ？  
ふしぎだなあ。

##### ■身近な事象を取り扱う

- ・子どもの身の回りにあるもの、子どもにとって必然性のあるものを教材化する。
- ・子どもが試行錯誤できるような環境を設定する。

気になるなあ。  
どうにかしたい！

##### ■活動に没頭できるようにする

- ・対象にじっくりと関わることができるように、時間や場所にゆとりをもつ。
- ・失敗しても諦めず、うまくいかなかった理由を考え、学び続けることを価値付けたり、促したりする。

もっと  
やってみたい。



### 視点2

#### 意欲を引き出す 集団づくり

<具体的な取組例>

##### ■しっかりほめる、認める、共感する

- ・結果だけではなく、その過程を見取り、価値付ける。
- ・子ども自身が気付いていないことを価値付ける。
- ・「わかった」「できた」瞬間を子どもと一緒に喜ぶ。
- ・一人ひとりの子どもの願いや思い、疑問に寄り添う。

よいところに  
気付いたね！

##### ■子どもの多様性を保障する

- ・言葉にならない子どもの「思い」を多様に読み取る。
- ・一人ひとりの考えを大切に、子ども同士をつなぐ。
- ・人との関わりを楽しみ、そのよさを実感できるような活動をとり入れる。

話し合うことで考えは  
もっとよくなる！

##### ■自立への基礎を養う

- ・自分で考えることを促すような言葉がけをする。
- ・クラスの約束を一時的に押し付けるのではなく、子どもと一緒に考える姿勢を大切にする。

どうすれば  
いいかな？



### 視点3

#### 子どもたちのために一丸となって取り組む 組織づくり

<具体的な取組例>

##### ■組織全体として取り組めるよう仕組む

- ・指導の重点を明確にし、具体的な実践事項を設定する。
- ・重点の取組について、実現可能な目標を立てる。
- ・取組に対する検証を定期的に行い、具体的な改善を図る。
- ・取組の成果を積極的に共有しながら進める。

## 幼小接続を通して、保育・授業の質の向上を目指す

子どもたちの学びをつなぎ、成長を促すためには、互いの保育・授業を知ることが大切です。子どもたちは「どんな環境」で「どんなこと」をしているのか、子どもたちの育ちや学びを共有しましょう。そして、幼小連携・接続をきっかけにして、互いの保育・授業のよさを学び合い、さらなる保育改善・授業改善を進めていきましょう。

### もっと知りたい！幼小接続に関する参考資料



【文部科学省国立教育政策研究所】  
接続期カリキュラムの作成のポイント  
等がまとめられています。

【滋賀県教育委員会】  
これまでの研究指定校園における  
取組のまとめを掲載しています。

【滋賀県総合教育センター】  
幼小連携・接続に関する研究の  
成果物を掲載しています。